

第8回

都市農地保全自治体フォーラム

～会員自治体取組事例紹介～

平成26年7月14日 都市農地保全推進自治体協議会



昭 島 市

市長：北川 穰一

【ふれあい農業の推進】

市民農園「マイファームあきしま」や、農業体験教室「親子米づくり教室」、田畑を市民と巡る農ウォークなどの施策を行うことで、市民が農業とふれあう場を積極的に提供しています。





あきる野市

市長：白井 孝

【地産地消型農業の推進】

農産物の収穫体験などを行うイベントや学校給食への食材提供、地元農産物を利用した加工品の販売促進など、幅広い世代が地元農業への理解と信頼を深められるような活動を推進しています。



収穫体験



小学校での食育



加工品の販売促進



足立区

区長：近藤 やよい

【農業ボランティアの育成】

高齢化や担い手不足の農家経営支援のため、農作業のお手伝いをしたい区民を募集し、農家などでの実習、講義により農業ボランティアとして養成し、登録者を希望する農家へ派遣しています。

(H25派遣実績 = 延1,749人)





板橋区

区長：坂本 健

【板橋ブランド野菜「志村みの早生大根」】

板橋区では、一度姿を消した江戸東京野菜「志村みの早生大根」を復活させ、板橋ブランド野菜として、区内イベントでの販売を始めました。

今後、「志村みの早生大根」を板橋の農業振興のシンボルとして、地産地消や食育をさらに推進していきます。





稲 城 市

市長：高橋 勝浩

【稲城市イメージキャラクター「稲城なしのすけ」】

ガンダム等のメカニックデザインを手掛けた稲城市在住の大河原邦男氏と、マルチクリエイター井上ジェット氏のコラボにより誕生しました。特産の梨をモチーフにした梨型メカです。稲城市の魅力をPRするために活躍しています。





江戸川区

区長：多田 正見

【江戸川は花と野菜のゆめ産地】

68万区民が生活する江戸川区。生産量が都内第1位の小松菜と東京の花どころと言われる花卉栽培が盛んです。小松菜関連商品は数多くあり、そのPRも兼ねたスタンプラリーは盛況です。





青梅市

市長：竹内 俊夫

青梅市内で明るく楽しく活動している

女性農家グループ **グリーンプラム** の紹介です。

青梅市で活躍する「グリーンプラム」は女性ならではの目線で、多くの消費者の方々に青梅産農産物をPRしています。中にはちょっと珍しい農産物もあります。独自の調理法や保存法などの技術を高める勉強会も行っています。

グリーンプラムの主な活動

青梅産農産物をPR

おしゃれなミニ野菜を販売

イベント販売等





大田区

区長：松原 忠義

【大田区野菜と花の品評会】

区内農業者による品評会を実施しています。あわせて、区民農園でとれた野菜の展示、伝統工芸品であった麦わら細工の製作体験、野菜についての講座、区内の野菜を使った料理の紹介と試食なども行い、農業への理解を深めています。



葛飾区

区長：青木 克徳

【農業応援サポーター養成講座とサポーターバンク】

千葉大学園芸学部、区内営農集団との連携により、農家の労働力不足解消を目的とした、農作業ボランティアの養成講座を昨年度実施。本年度は講座修了生の本格的な派遣、活用を目指しています。



とれたて・イキイキ
葛飾福野菜 



清瀬市

市長：渋谷 金太郎

【清瀬は農業が元気です！】

農業まつり・中学生の農業体験・市民農園・消費者の農地見学・農商工業者連携事業「きよせひまわり市」や農のある風景として、「清瀬ひまわりフェスティバル」を開催し、市民とのふれあい農業を進めています。



清瀬ひまわりフェスティバル



国立市

市長：佐藤 一夫

【生き生き都市農業推進事業】

農地を保全するために、体験農園の運営試行や農のサポーター育成、用水・ハケの営農環境保全の仕組みづくりを推進します。また、農業体験学習施設の開設やマルシェの開催等により、農・商・工・市民連携を促進し、農業を応援しています。



農業学習体験施設「城山さとのいえ」



くにたちマルシェ



府中用水の草刈りボランティア



小 金 井 市

市長：稲葉 孝彦

【夏と冬に親子を対象に収穫体験を開催】

市内農家の方の協力を得て、親子を対象に農作物の収穫体験を開催しています。参加した親子からは、「こども自ら土に触れ、収穫することができ、食育の一環として貴重な体験ができました！」と、好評です。





国分寺市

市長：井澤 邦夫

【国分寺市市民農業大学と援農ボランティア制度】

市民と農業者の交流の場として、平成4年より市民農業大学を開設。22年間で860名が修了。市民農業大学の課程で援農ボランティアを養成し、市内農家に紹介。現在、84名が国分寺農業の応援団として活躍中。





小平市

市長：小林 正則

【こだいらエダマメウィーク】

平成24年度より、採れたて新鮮な市内産の旬のエダマメを使って飲食店を巻き込んだ地産地消キャンペーンを行っています。昨年は市内飲食店23店舗が参加しました。新鮮でおいしい小平産のエダマメをぜひご賞味ください。





狛 江 市

市長：高橋 都彦

【GAPの取組でブランド野菜を生産】

有志農家がGAPの取組により食の安全をチェックシートで「見える化」することで、消費者の安心の根拠にしようと、「狛江GAP研究会」を組織し、都内で初めてのGAPの取組を開始しました。GAP手法に取り組むことで、新たな付加価値を加えた農産物を『狛江ブランド野菜』として確立させていく支援をします。





杉 並 区

区長：田中 良

なみすけ

【貴重な財産である都市農地を守ろう！】

26年度新規事業

- ・ 農業体験農園(小規模)の開園に伴う助成
- ・ 生産者、JA、協働提案事業者等による
流通システムの構築に向けた検討
- ・ 防災兼用農業用井戸の整備
- ・ 意欲的な農業経営者への活動費助成



写真提供：全国農業体験農園協会



世 田 谷 区

区長：保坂 展人

【農業・農地を活かしたまちづくり事業】

東京都の「農の風景育成地区」に指定された喜多見四・五丁目地区は、農地だけでなく寺や神社等の保存樹林地、古墳などの史跡も点在し、農の風景が残っている地区です。

平成25年度から産業労働局の標記事業により、地区内の農家・住民と検討会を開催し、農を活かしたまちづくり等の取り組みを進めています。



立川市

市長：清水 庄平

【ファーマーズセンターみのーれ立川】

特産品の「うど」や「トマト」、市内産の「豚肉」も販売中。10月にはイートインスペースもオープン予定。立川で新鮮な農畜産物を、味わってみませんか！？





多摩市

市長：阿部 裕行

【ふれあい農業推進事業

農業ウォッチングラリー】

市内の農地をラリー形式で歩き、収穫体験を通して多摩市の農業を肌で感じていただくことを目的に農業委員会が実施。





調 布 市

市長：長友 貴樹

【農業体験ファーム】

市民に対する農業体験の場を確保するとともに、農業に対する理解を深め、良好な農地の保全を図っています。





中野区

区長：田中 大輔

【中野区親子農園事業】

18歳未満の子どもと同居する世帯を対象に、昭和44年から開始。
貸出区画151区画(1区画9.9㎡)。
親子が自然に親しみ、青少年の健全育成を目指しています。





西 東 京 市

市長：丸山 浩一

【住み続けたい農のあるまち・西東京市】

4つの基本方針に基づき、各種事業を展開しています。

食と暮らしを支える多様な農業

多様な担い手が生きがいややりがいを感じる農業経営

農地の保全と活用

農業を通じた交流





練馬区

区長：前川 燿男

【地産地消の促進】

区内約300か所の自宅前直売所は、区民から関心の高い、新鮮で安全な農産物を気軽に手に入れられる貴重な場となっています。また、生産者と消費者が直接交流することで地域のつながりが深まるなどの効果が期待できます。

消費者が身近にいる都市農業のメリットを活かし、地産地消を積極的に促進しています。





八王子市

市長：石森 孝志

【農地バンク制度のスタート】

遊休農地(市街化調整区域)の解消と発生防止を目的に平成26年4月より「農地バンク制度」を開始。貸付けを希望する農地の情報を集約するとともに、農業の経営規模を拡大したい農家や法人、新規就農者に農地の情報を提供し、利用権設定による貸借につなげていきます。



羽 村 市

市長：並木 心

【援農ボランティア制度】



地域に根ざした農業を推進するため、援農ボランティア制度を充実させており、22名が活動しています。年1回それぞれの農家で活動しているボランティアの方々との意見交換会を実施、その後は収穫した野菜等でバーベキューを行い交流を深めています。



東久留米市

市長：並木 克巳

【地場農産物活用事業】

東久留米産のサツマ芋を鹿児島島の焼酎メーカーにて仕込み、数カ月間、甕で寝かせ熟成させ、非常に深みのあるまるやかな風味に仕上げました。

「黒目川」というネーミングは、市内に源流を持つ黒目川にあやかりました。





東 村 山 市

市長：渡部 尚

【地産地消】

久米川駅北口前広場にて、市内の農業者が直接販売を行う朝市、「マルシェ久米川」を毎月第3日曜日に定例開催。

市内産農産物を始め、それらを原料とした加工品を販売し、市民の好評を得ている。





東 大 和 市

市長：尾崎 保夫

【第3回グルメコンテスト うまかんべえ～祭】

昨年に引き続き、市内で生産されている農産物等を使用して、市内農業のPRや地産地消の推進を目指したグルメコンテストを開催しました。会場では農業者による農産物の直売も行われ、大好評をいただきました。





日 野 市

市長：大坪 冬彦

【農の学校】

援農市民養成講座「農の学校」が創設10年目を迎え、延べ161名の修了生を輩出し、現在41農家のもとで援農ボランティア活動を行っています。





日の出町

町長：橋本 聖二

【地産地消型農業の推進】

作り手の顔が見える新鮮で安全な地元農産物の販売や地元加工品の販売を促進し、農業者の生産意欲の向上「地産地消」を根幹とした農業の維持、振興を図っていきます。





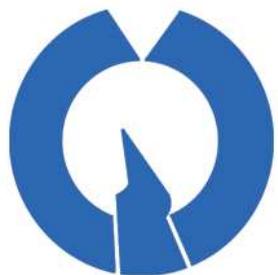
府 中 市

市長：高野 律雄

【農業体験事業】

市民の農業に親しみたいという要望に応えるとともに、都市農地の多面的機能について広く意識の啓発を図るため、野菜や米だけでなく、花などの栽培を行う幅広い各種農業体験事業を展開しています。





福 生 市

市長：加藤 育男

【福生市初の認定農業者誕生】



当市初の認定農業者が誕生しました。今回認定を受けた方は「福生の子どもたちに福生の美味しい野菜を食べてもらえるよう頑張りたい」と話していました。

次なる認定農業者の誕生に向けて、引き続き取り組みます。





町 田 市

市長：石阪 丈一

【田んぼのある里推進事業】

貴重な谷戸風景を保全するため、水稻を作付けしている水田を対象に10aあたり15,000円の水田保全奨励金を交付します。このほか、レンゲ草の種の配布等も行っています。





瑞穂町

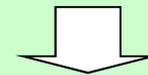
町長：石塚 幸右衛門

【農地の保全と担い手の確保】

瑞穂町では東京都と連携し、平成24年度に「人・農地プラン」を策定し、青年就農給付金事業の実施や、農地リフレッシュ再生事業などにより新規就農者が町に定着して農業が出来るよう積極的に取り組み支援しています。



施工前



施工後



三鷹市

市長：清原 慶子

【「TAKA-1」みたかのおみやげ部門】

三鷹の魅力的な商品を「みたかのおみやげ」として認定し広くPRすることで、地域ブランドの構築と6次産業化を推進しています。

三鷹産農産物も数多く使用されています。

キウイフィナンシェ



みたかラスク



三鷹キウイワイン



武 蔵 野 市

市長：邑上 守正

【農業委員会だより

「むさし“農”」】

農業を身近に感じてもらいたいと、市民への広報誌として、「むさし“農”」を発行し、市内公共施設や、農産物品評会などのイベントで配布しています。



～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし 農

創刊号 平成 25 年 10 月
編集・発行 武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町 2-2-28
Tel 0422-60-1833 (直通)
Fax 0422-51-0103 (直通)

農業委員会だより発行にあたり、ご挨拶申し上げます。
本市農業委員会は、市と協力し、都市農業の発展・充実のために認定農業者や農産ボランティアの育成事業、市民農家の栽培コンクールへの協力、市民参加型の農の風景写真コンクール、夏野菜の立派な品評会と試食会、秋の青空市と合わせた農産物品評会の開催など様々な農業振興事業に取り組みしてまいりました。また、市内農地の多くは、大規模営農生産者の確保先として行政と協力関係にあります。学校給食については、生産者と給食関係者が定期的に協議を重ね、食料の安全・安心を求めています。野菜生産者は、安全・安心な野菜生産のために常に各野菜の標準目から肥料や農薬の適切な量を生産履歴に記入・保存し、公開しています。
この農業委員会だよりが、都市化が進む武蔵野市の中で宮まわっている「農業」をより多くの市民に知っていただくための情報発信の一助となりますことを願ってやみません。
武蔵野市農業委員会会長 井口 良典

武蔵野市の小麦スローフード

武蔵野市では、昔から小麦の栽培が盛んでした。先人の伝統を次世代に継承していくために、現在市内小学校の児童が小麦の栽培体験を行っています。

 畑にまで足跡を付けこれ8日間に 穫りき (11月)	 雪の日もあり	 収穫 (2月)
 地産うどんの配達いただきまーす (9～11月)	 収穫と脱粒 (6月)	 青葉の頃 (4月)

創刊号と、
農産物品評会
での即売会



武蔵村山市

市長：藤野 勝

【援農ボランティアの活用】

現在8名のボランティアの登録があり、3ヶ所の農家で実施しております。

農地保全のため、今後農業者へは、ボランティアの有益性の周知と一方でボランティアの増加が課題となっております。





目黒区

区長：青木 英二

【農産物品評会】

区内の農家で生産された農産物の品評会を、夏と秋の2回行っています。少ない生産量ですが、丹精込めて作られた野菜や果物が出品され、その後の即売を楽しみに待っている区民の方々に喜ばれています。

